

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
地方政治論（70期～）	岡田 一郎	講義	2		1, 2, 3	1, 2, 5	2, 3, 4
授業概要 授業目的	福祉国家の時代のケインズ主義、ポスト福祉国家の時期の新自由主義。国の政治経済運営の大方針が変わるのに応じて自治体の制度も変遷しています。その一環で地方分権改革が行われました。しかし地方財政、住民参加など課題も残されています。このような状況の下、自治体の統治機構、住民、地域の各種団体が連携する動きが広がっています。これをローカルガバナンスという切り口で学んでいきます。						
到達目標	(1) 二元代表制、代議制民主主義について説明できる。 (2) ポスト福祉国家の時代に自治体、地域社会がどのような変化を受けたか理解できる。 (3) ローカルガバナンスの意味を説明できる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション：地方政治論の対象と方法。学習の進め方（資料の探し方、ノートの取り方）						
2	統治構造：国と地方との関係、二元代表制						
3	第2次大戦後の経済と国家：福祉国家、新自由主義						
4	労働、社会保障分野における地方自治体の役割						
5	地方分権改革の経過						
6	大都市圏におけるガバナンスの難しさ						
7	産業振興におけるデモクラシーの役割						
8	広域行政：一層の合併か合併なしの連携か						
9	コミュニティー活動：過疎地域の地域振興を題材に						
10	住民投票：賛否表明から対案提示へ						
11	中央地方関係の変化：法律と条令をめぐる変遷						
12	ローカルガバナンス：思想史的考察						
13	資本蓄積と都市政治：アメリカ発の生活賃金運動を題材に						
14	まとめ：基本用語の再確認、今後の学習の手引き						
15	討論会：講義内容を踏まえて身の回りの事例について討論						
予習内容 復習内容	予習：授業の前に予定の章に目を通す。疑問点があればノートのメモしておく。 復習：ノートを整理する。予習のさいの疑問が解決したか考える。						
教科書	石田徹、伊藤恭彦、上田道明編『ローカルガバナンスとデモクラシー』（法律文化社、2016年）						
成績評価	授業ごとに提出するレポート40%、期末レポート60%						
実務経験							
その他 特記事項	天下国家を語るのが政治という考え方もあります。講義の中でそれとは別の視座を獲得していただければ幸いです。人々が日々行き来し交流する地理的な広がりの中で、政治がどういう役割も担うかを考えていきましょう。						